

文教速報

= 隔日刊月・水・金 =
(但し 祭日休刊)
月額:7,560円
(うち消費税 560円)

官庁通信社

〒101-0041
東京都千代田区
神田須田町 2-13-14
総務部
(03)3251-5751
FAX 5753
編集部
(03)3251-5755
FAX 5753
E-mail:bunkyo@
kancho-t.com

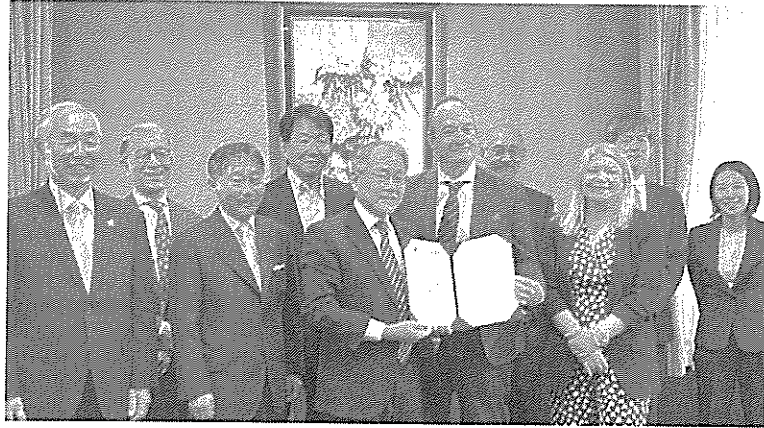
令和5年11月15日(水曜日) 第9332号

補正予算案 文科省分は1兆2912億円

研究力向上と優秀人材育成、成果の活用促進

- ◎ 学術会議の「法人化」へ論点…………… 3
- ◎ 外部資金獲得や客観評価を要請…………… 3
- ◎ 盛山文科大臣が東工大を視察…………… 4
- ◎ 東京外大が150周年記念式典…………… 5
- ◎ 国大図協が秋季理事会を開催…………… 6
- ◎ 神戸大・福教大・豊橋技科大…………… 6
- ◎ 大学改革支援機構・女性教育会館…………… 8
- ◎ 京大・福島大・鹿大・北陸先端大…………… 10
- ◎ 長崎大・東北大・筑波大・大分大…………… 12
- ◎ 金沢大・九工大・愛教大・大教大…………… 15
- ◎ 大学共同利用機関シンポを開催…………… 18
- ◎ 呉高専で津波避難訓練…………… 18
- ◎ 沖繩高専が20周年記念式典…………… 19
- ◎ 熊本高専・函館高専・岐阜高専…………… 19
- ◎ 文科大臣賞など決定…………… 21
- STI for SDGsアワード…………… 21
- 今日の話題…………… 21
- 関西官学連携推進ポータル開設…………… 21

滋賀大、ロンドン大東洋アフリカ研究学院と協定



滋賀大学では11月4日、イギリスのSOASユニバーシティ・オブ・ロンドン(ロンドン大学東洋アフリカ研究学院)と学術交流協定(MOU)を締結し、彦根商創立百周年記念式典が開催されるのに併せ、締結式を挙行了した。写真Ⅱ。

経済学部・データサイエンス学部同窓会である陵水会会長等の尽力により、両機関のMOU締結に至った。

SOASは100年以上の歴史を誇り、充実した人文科学・社会科学のプログラムを持つだけでなく、とりわけアジア、アフリカ、中近東の地域研究を専門とする世界最高の教育・研究機関。また、研究対象の地域から多数の留学生や研究者を受け入れており、国際色豊かな大学として知られている。

締結式では、サイン後に滋賀大の竹村彰通学長、SOASのグレアム・アール人文科学部長がそれぞれ挨拶。両大学の今後一層の研究・教育分野での協力関係の発展に期待していること、また教職員間の交流だけでなく交換留学等学生の交流も活発に展開されることへの期待感を表明した。その後も参加者一同、今後の両大学の交流の可能性に関し、和やかに懇談が続いた。

SDGの重要性が広く共有されてきた。セミナーでは持続可能な開発目標(SDG)の達成に最も近いフィンランドでのジェンダー主流化の取組に関する基調講演(講

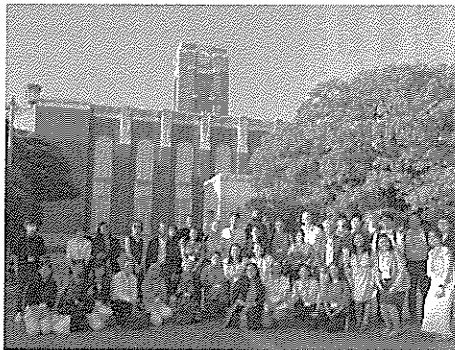
セミナーの様子はオンライン配信される。また、オンデマンド配信も2月1日から14日実施する予定。

京大が次世代グローバルワークショップ

京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU)は、第16回「次世代グローバルワークショップ」をこのほど2日間にわたり開催した。今年のワークショップは、『Migration and Quality of Life: Harnessing the Potential for Social Prosperity』をテーマに掲げて実施。コロナパンデミックによる3年間のオンライン開催を経て、ようやく対面形式に戻った。世界中の大学院生・若手研究者から約80名の参加応募申請があり、そのなかから選出されたインド、フィリピン、シンガポール、ドイツ、アメリカ、日本などの8カ国の若手研究者26名が八つのセッションで報告を行った。



吉田神社ウオーキングツアーで



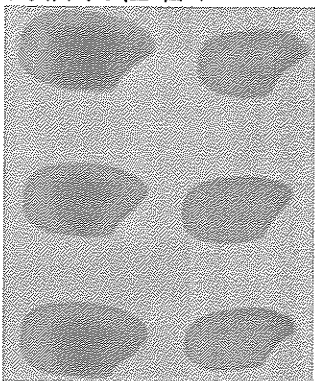
参加した8カ国の若手研究者ら

発表のテーマは多岐にわたり、移民と戦争、労働、結婚、法制度、宗教、エスニシティ、アイデンティティなど、多様な領域で議論が展開された。また、14名の大学教員がアドバイザーとしてワークショップに参加し、若手研究者の論文と発表にコメントを行った。最終日のラップアップセッション(しめくくり)では、「自分のトピックだけでなく、他人の研究にも関心を持つようになり、海を跨いだ学術の協力関係を構築できた」など、多くの参加者から感想が寄せられた。アジア研究教育ユニットでは、引き続き次世代の研究者が英語での学術交流が行いやすい環境作りに尽力し、同ワークショップをきっかけに、多くの若手研究者が世界に羽ばたいていくことを期待している。

福島大特定助教が特定酒米の特徴を生み出す遺伝子

福島大学食農学類附属発酵醸造研究所の吉田英樹特定助教を中心とする研究グループは、2022系統のイネのゲノム情報を用いた解析によって、日本酒の原料になる酒米で、粒が大きく「心白」と呼ばれるか「白濁」を生じるという二つの特徴を生み出す遺伝子をそれぞれ特定した。

粒が大きいことで雑味の原因となる外周部をより削りやすくなり、心白は麹菌による発酵を促進することが知られている。この成果は英文学術雑誌『Molecular Plant』で9月9日に公開された。10月4日に行われた同大の定例記者会見



で、研究グループの吉田英樹特定助教が発表を行い、「酒米として良質であるとはどういうことなのか」を遺伝子レベルで説明できるようになった。今回の知見が、新規優良酒米品種に向けた品種改良の効率化に繋がれば」と語った。

食用米(コシヒカリ、[㊦]と酒米(山田錦、[㊥])の白米。酒米の中心部分の不透明な部分が心白